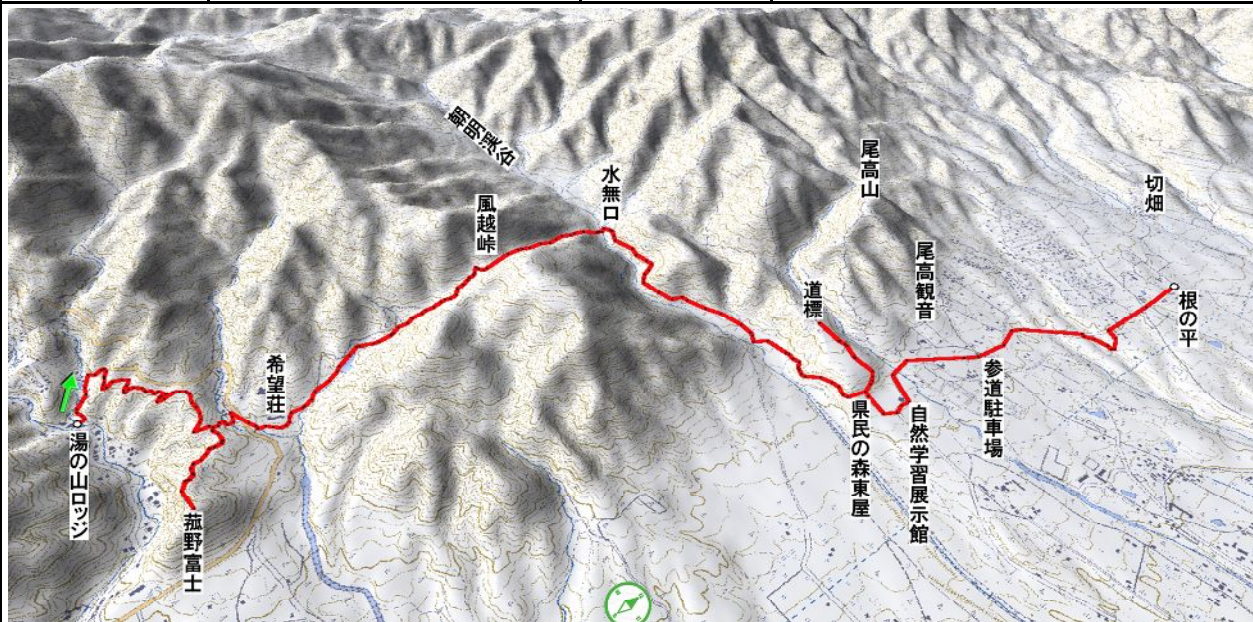


健康登山66:自然歩道35 (湯の山温泉～切畑)

コース	湯の山ロッジ 2.3km/61 0.8km/26	菰野富士 1.0km/21 朝明溪谷水無口 2.3m/38 自然学習展示館 0.8m/12	希望荘 1.8km/58 県民の森東屋 0.6/15 尾高観音参道駐車場 1.9km/30	風越峠 0.9km/15 道標 根の平
水平距離	12.4km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	13.8km			
累計高低差	登り693m、下り823m			
標準歩行時間	4:36			
実績歩行時間	4:50			



山行報告

山行日 2011・4・8 (金) 天候 曇りのち小雨 参加者 5名

湯の山ロッジ8:10 菰野富士分岐8:55 菰野富士9:15～25 希望荘9:40 風越峠10:40
 行動 朝明溪谷水無口11:25 県民の森東屋12:00～40 道標 東屋再出発13:12 自然学習展示館13:40 参道駐車場13:47 根の平タクシー待ち14:30～50 四日市駅15:40 京都18:28

記録

午後から雨の予報だが薄日があった。ロッジから5分で自然歩道に入り、小刻みなアップダウンを繰り返して、鈴鹿山系の展望台『菰野富士』に立ち寄った。標高369mの山頂から温泉街の後方に入道ヶ岳、鎌ヶ岳、御在所岳、国見岳等、鈴鹿の主稜線が迫り、東には四日市市、伊勢湾、知多半島が広がる。このコース最大の絶景ポイントだった。

鈴鹿スカイラインを越え、希望荘を過ぎたあたりから道は登りになる。峠の手前に笠岳の登り口があり、この辺りから小雨が降り出した。風越峠で雨具をつけた。峠からの下りは傾斜がきつく滑りやすいので気をつけて下った。

この谷道には明治に治山治水のために作られたデ・レーケ指導による「縄たるみ堰堤」が数か所あった。川底や斜面にモザイク状の石積み、現在も堅固で崩れず、構造美を保っていた。

朝明川が増水すると橋は無く、上流の朝明溪谷キャンプ場の橋まで迂回となるが、今回は増水まで至らずコンクリート飛び石を無事渡渉できた。

朝明溪谷水無口からは車道を歩き「県民の森」入り口の東屋で昼食をした。

昼食後、尾高観音1.7kmの道標に従い県民の森へ入る。焼合川を越える右折ポイントで道標は戻る方向を示している。上流も偵察したが他に道はなく、『県民の森近くは通れない迂回路を』という役場情報もあったので東屋へ戻り、公道を歩いた。

自然学習展示館を経て参道駐車場に着いたが時間が無く尾高観音参詣は諦めた。自然歩道は車道に沿うように東側に設けられているが、これもカットして目的地である切畑へ急いだ。

列車ダイヤの都合でJR四日市駅15:40発に乗るために、途中でタクシーの予約をした。はじめは切畑集落で予約したが、時間が来たので根の平に切り替えてタクシーを待った。

道標完備の東海自然歩道歩きでも街歩きも含めて読図の大切さを学んだ2日間だった。

自然歩道 (湯の山温泉～朝明溪谷～切畑)



湯の山ロッジ
を出発
8:08



菰野富士への
尾根道歩き
8:40



菰野富士にて
鎌ヶ岳と御在所岳
9:15



希望荘前
9:45



風越峠へ向う
かけす橋
10:00



風越峠の道標
10:37



急な谷道下り
10:59



朝明川を渡る
11:14



県民の森
入口の東屋
12:22



参道駐車場の
案内板
13:42

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：湯の山温泉～風越峠～朝明川～切畑）

参考資料 ホームページ他より

菰野富士：^{こもの}標高 369m。東海自然歩道に 0.8 km 道標設置され、380 度の展望がある。鎌ヶ岳、御在所岳が、条件がよければ木曾御嶽、日本アルプスも見えるとか。夜景ハイクも行われているようです。
（東海自然歩道の鳥井戸川分岐から登り 15 分下り 10 分）寄り道に推薦。

風越峠：^{かざ こし とうげ}野生動物の野風呂(ぬたば)があり、「獣道」が横切っていることから「イノシシの踊り場」ともいわれています。

朝明溪谷：^{あさけ}鈴鹿国立公園に含まれる。(菰野町)
釈迦ヶ岳と御在所岳との間を東流する朝明川の最上流部を、花崗岩の間に約 1,5 km 続く溪谷。山小屋、キャンプ場が整備され登山基地にもなっています。キャンプ場は県下最大といえます。

朝明川：^{あさけかわ}三重県北部北勢を流れる二級水系の本流。川床は砂。上流にオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケ指導の砂防堰堤群があります。(国有形文化財)
現地の花崗岩を石工がノミで一つ一つ刻んで積み上げたもので、縄跳びの様に中央がたるんでいるので「縄だるみ堰堤」といわれるものです。
堰堤は^{はとみね}羽鳥峰方面登山道沿いにあります。(釈迦ヶ岳。水晶岳への登山口です)

東海自然歩道はこの川の飛び石を渡りますが、増水時は上流の朝明キャンプ場まで迂回(1 時間余)するか下流の橋まで迂回となります。

【朝明の地名】^{あさけ}東征中の日本武尊が当地で夜明けを迎え、朝明川の水で口をすすいだことから川の名が付いたと伝承されています。

県民の森：釈迦ヶ岳の麓、標高 200m に広がる森林公園。面積 466he。
東海自然歩道はこの中を通っています。
自然科学館、ふれあい館、散策コース、駐車場、トイレなどがあります。

尾高高原：鈴鹿釈迦ヶ岳(1092m)の東麓標高 200m に広がる。7～9 月は尾高キャンプ場が開かれます。東海自然歩道が縦断しています。

尾高観音：檜の古木が並ぶ参道の奥に、六角堂があり、千手観音菩薩立像が祀られています。仏像は聖徳太子作と伝え、縁結びとして人気があります。
尾高山への登山口の一つになっています。(駐車可)

尾高山 : 標高 533m。釈迦ヶ岳東面の山麓域で三重県民の森に隣接した複数のハイキングコースがあります。尾高観音左横から登山口がある。
山頂に展望台があり、鈴鹿山脈、養老山地、伊勢湾、知多半島などが望める。
また釈迦ヶ岳へ縦走ができます。

八風^{はっふう}街道 : 中世の重要な産業交易路。近江の永源寺政所と伊勢の田光を結んだ道。
旧道は荒れていますが、県境尾根の八風峠に「八風神明社」の鳥居があり、
県境尾根からの展望は素晴らしいとか。峠の東に「三池岳」があり好展望。
交易路の盛んな頃は街道に柵を設け「峠越え通行警護料」を口実に関銭を徴収していたそうです。
また陶器を持って通ると大嵐になるといわれ、峠に番小屋を設け村人たちが
交代で所持品を改めていました。(切畑、田光、近江の政所村も加わった)
その訳は、切畑の長者の家宝の皿が紛失し、皿の守役の「お菊」が激しく責められ、
身の潔白を晴らすため、峠の神明社に祈り身を池に投じた。(これは長者の下男の「熊蔵」
が「お菊」に思いを寄せていたが、ままならず恨みもち密かに皿を隠し罫にはめた。)このとき
一天俄かにかき曇り、雷鳴轟き大雨が降り、村長の家も村も流されてしまった。
(田光村、切畑村の伝説)
この後、切畑、田光の若者たちは峠の龍神池に身を投じた薄幸お菊の霊を憐れみ、
峠の神明社に祀り、その霊を慰めるため神事として草競馬を行ったといわれています。
三池山(972m)山頂に「お菊池」があります。

八風の石 : 八風街道の村境にある 18 畳敷もある大きな石。田光、切畑、杉谷の境にあったので、
昔この石の上で、村の寄り合いもしたといわれています。
石の上に龍神が祀られています。

八風競馬場 : 「お菊伝説」から始まり、2001 年まで使用されていた。
現在はスポーツ公園になっています。
外周の柵(ラチ)が残り、競馬場の面影を留めています。

八風^{やかせ}の由来 :

神武天皇の時代、伊勢の国津神「伊勢津彦」が天御中主神十二世の孫で
天日別尊^{あめのひわけのみこと}との争いで(追い出された)この地を去る時「八つの風」を起こして
海水を吹き上げその波に乗って東方(信濃)へ去ったことに由来するそうです。
天日別尊は天皇の勅を受けていたので報告すると、天皇は喜び伊勢津彦の名を取りこの国を「伊勢」と号し大和の領土となりました。
天日別尊は伊勢神宮の内宮、外宮をお護りしていた一族の度会^{わたらいし}氏の祖です。

長野市に風間神社(祭神：伊勢津彦命)と「八風山 1315m」があります。伊勢津彦は嵐の海上から尾張、天竜川、善光寺平、更に千曲川沿いに小諸から佐久平へ八風山の山の下に八風郷があり「伊勢津彦」はこの辺りで留まったそうです。伊勢津彦は稲作文化を持ち、山国の善光寺平で意外に早く稲作を始めていたようで過疎地に稲作文化が伝えられていたといわれます。

多くの峰をさす「八峰」が訛って「八風」に転化したともいわれる。鎌倉時代の正史「吾妻鏡」では八風峠は「八峯山」と書かれているそうです。

巡見道：江戸時代幕府の巡見使が通った道。三重県では亀山東町で東海道と分かれ、国道 306 号を縫うように愛知県境まで 60 km 北上します。巡見使とは、将軍の代替わりごとに諸国の政情、民権、風俗などを査察するために派遣された幕府の役人です。(巡見使は時代劇でお馴染みです)

【榎の大木】田光バス停近くに、八風街道と巡見道の交差する南西角にあります。この木の下のはなは八風街道が交易路として賑わっていた頃の**交易市場**の跡と言われています。他に、「里程標」「高札場跡」「^{ちからいし}力石」また幟竿を立てる穴石もあります。南西の乗徳寺山門前には駒寄せのひろばがあります。

田 光：八風街道、八風峠からの伊勢側への最初の宿場でした。田光野の東端の三角州で朝明川、田光川の伏流水が湧出して低湿地が日の光でピカッと光っているところから村名となった。